



## ●葉いもち防除の徹底を

いもち病は一度発生すると広範囲に感染が広がります。箱処理剤の普及により被害は少なくなっていますが防除の徹底を改めてお願いします。

補植用余り苗は作業が終わったらただちに処分しましょう

補植用余り苗は、ほ場にあるだけで伝染源となってしまいます、補植作業が終わったらただちに土中に埋没させるなどして処分します。



◎葉いもち予防のための箱処理剤施用や側条施用を行っていない場合は、オリゼメート粒剤を散布しましょう。

箱処理剤を施用した場合は散布の必要はありません。

①オリゼメート粒剤は6月15日頃(12~18日)の散布が目安です。(2kg/10a)

…もしほ場内でいもち病発生を見つけたら

持ち込み病斑やほ場の余り苗などからの伝染を早期に発見した場合は、予防剤と治療剤の混合剤(ブラシン剤等)の茎葉散布を行います。また、営農センターへご相談ください。

病害虫の発生にも注意しましょう

病害虫防除所から発表された予報によると、イネミズゾウムシとイネヒメハマグリバエの発生量が多いと予想されています。箱処理剤を使用していないほ場では稲をよく観察し、発生が認められる場合はトレポン剤などを散布して防除を行います。

そのほかの病害虫も局所的に発生する可能性がありますので、発生した場合は営農センターへ相談し有効な薬剤を適切に散布しましょう。

## ●異常気象に対する対策の確認を

冷害が予想される場合

1. 天気予報をこまめにチェック

冷害には「やませ」によるものと「西風」によるものと2種類のタイプがあります。天気予報をチェックし気温が低くなると予想される場合、生育初期は保温のため昼間止め水とし、用水と水温の較差が最も小さくなる早朝に入水することが有効です。以後は止め水することで昼間の日射を水温、地温上昇に利用しましょう。

2. 中干しは早めに

幼穂形成期以降は低温の影響を直接受けるので、目標茎数の8割になったら、中干しをはじめ、7月上旬には中干しを終了しほ場にかん水をします。

3. 深水管理をし幼穂を保護しましょう

出穂の22~25日前から幼穂の形成は始まります、それ以降に日平均気温20℃以下の低温や最低気温が17℃以下が予想される場合は水深10cm以上の深水で幼穂の保護を図りましょう。

また、減数分裂期(出穂10日前頃)に低温が予想される場合は水深15cm以上の深水にします。

4. いもち病に要注意

冷害の年はいもち病の発生が多くなる傾向にあります。苗段階からいもち病防除を徹底し、発生が確認された場合は直ちに治療剤(ブラシン等)を散布し各営農センターにお知らせください。

## 初期生育の確保と雑草防除の徹底を

今年は数日ごとに天気が変わり、育苗管理や耕起、代かき作業に苦労した方も多いと思います。田植え作業もいよいよ本格化、初期生育の確保と雑草防除の徹底をお願いします。

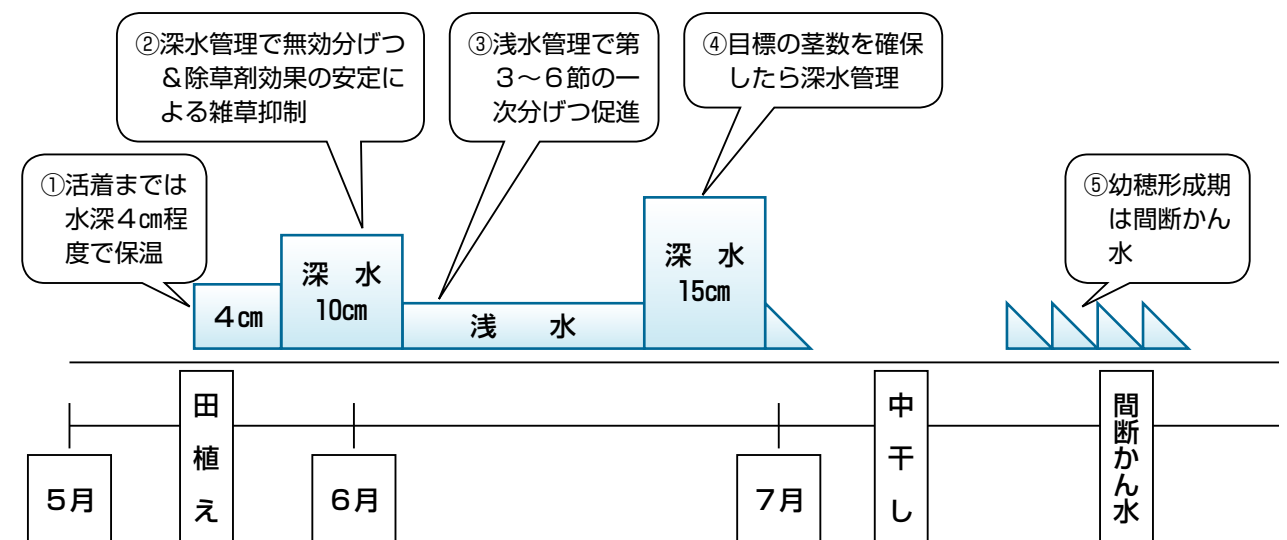
田植は活着を促進させるためできる限り日中の最高気温が20℃以上の日に行い、最高気温が15℃を下回るような日は極力作業を控えます。

田植え時の栽植密度は70株/坪を基本とすることで天候に左右されにくく、安定的に生育・収量を確保することができます。

### ●田植え後の水管理

- ① 稲が活着するまで概ね4~5日ほどかかります。田植え直後は活着するまで水深4cm程度とし、保温効果を高めるためできるだけ湛水状態を保ちます。
  - ② その後、10cm程度の深水管理を一週間ほど行い、初めに発生する充実した穂になりにくい分けつを抑えます。また、除草剤はこの時期に散布します。
  - ③ 深水管理を行った後は浅水管理を行うことで、日中と夜間の温度差を大きくし、穂になりやすい分けつの発生を促進させます。
  - ④ 目標の茎数を確保したら無効分けつを抑えるため、15cm程度の深水管理を7日間ほど行い、その後中干しを行います。
  - ⑤ 中干後は間断かん水とし、冷害の発生が予想される場合は深水管理を行い幼穂を保護します。
- ※今年は雪解けが早く進んだため水不足となることが予想されます。地域で協力して節水対策を行い安定した生育を確保できるようにお願いします。

### ●田植え後の水管理例



## ● 除草剤を効果的に使用しましょう

今年も雑草の生育は早まると予想されます。雑草が残ってしまうと養分競合による生育不良や斑点米カメムシ類による被害により収量、品質が大きく低下してしまいます。

確実に除草剤を効かせ、雑草の無いきれいなほ場を目指します。

雑草は代かき直後から生育を開始します、初中期一発剤はノビエ2葉期ごろに散布すると最も防除効果が高くなります。下表を見るとノビエは代かき後約10日で2葉期に達するため、除草剤の散布は代かき後10日を目安に行う必要があります。

また、代かきと田植えの間をできる限り短くすることにより余裕をもって除草剤を散布することができます。

除草剤は散布後、土壌表面に処理層を作ることで効果を発揮します、除草剤を散布する際は水尻をしっかり止め、ほ場にはできる限り水がたつぷりと張ってある状態にします。

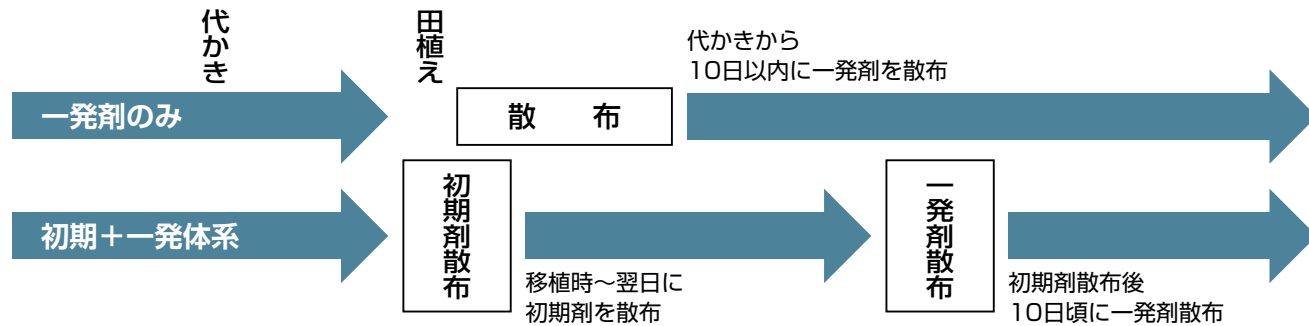
除草剤散布後は7日間は入水、落水を行わず田面に処理層をしっかりと作りましょう、水持ちの悪いほ場など、やむを得ず入水する場合はゆっくりと水を入れるようにします。

除草剤散布前にカナ（藻類、表層剥離等）が発生してしまった場合は、水の入れ替えやモゲトン粒剤を散布するなどして、カナを無くしてから散布します。

## 除草剤散布適期例と雑草葉齢進展の目安

- ・ 除草剤は草が見える前に散布することが基本です。
- ・ 気温状況により、葉齢進展スピードが早まる場合があります。

	防除可能葉齢		効果限界葉齢		防除困難葉齢																	
代かき後日数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
ノビエ								1.0葉			1.5葉		2.0葉			2.5葉					3.0葉	
ホタルイ													1.0葉									2.0葉
コナギ													1.0葉									2.0葉
アゼナ																						1.0葉



除草剤の成分には得意な雑草、不得意な雑草があります。次ページの表を参考に自分のほ場にどのような雑草が多いのかを考慮して散布する除草剤を選びましょう。

特にホタルイ等のカヤツリグサ科雑草が多いほ場は、斑点米カメムシ類のすみかとなってしまう品質が低下する恐れがあるため特に注意しましょう。

前年雑草の量が多かったほ場やオモダカ、クログワイなどの発生期間が長い雑草などは一発剤散布だけでは後発の雑草に対応しきれませんので、初期剤との体系処理をオススメします。

それでも残草してしまった場合は、残った草種に合わせた有効な中後期剤を散布しましょう。

近年、規模拡大により作業面積が増加し、除草剤散布が適期に行えていなかったり、田植え作業が終わってからまとめて除草剤散布を行う生産者が多くなりました。代かき～田植え～除草剤散布までを一つの行程と考え除草剤散布の日を設ける等計画的に作業を行いましょう。

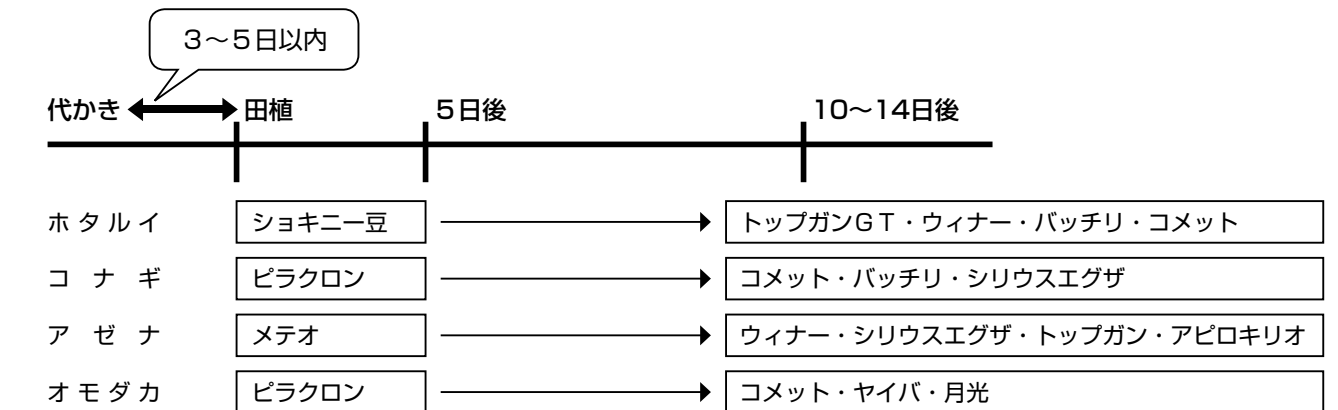
## ● 水稻除草剤一覧

### 一発剤

品名	使用時期	特徴
ウィナー1 <sup>✪</sup> 粒剤	移植直後～ノビエ2.5葉期	ノビエを長期間抑える、ホタルイにも効果が高い
カチボシ1 <sup>✪</sup> 粒剤	移植直後～ノビエ2.5葉期	ノビエを長期間抑える、コナギ、アゼナ類にも効果が高い
シリウスエグザ1 <sup>✪</sup> 粒剤	移植直後～ノビエ2.5葉期	ノビエに対し残効が長くコナギ、オモダカに効果が高い
スパークスター1 <sup>✪</sup> 粒剤	移植5日～ノビエ2.5葉期	カナ、表層剥離にも効果があり（抵抗性には効果なし）
パッチリ1 <sup>✪</sup> 粒剤	移植直後～ノビエ2.5葉期	効果の発現が早く幅広いSU抵抗性雑草に効果がある
コメット1 <sup>✪</sup> 粒剤	移植直後～ノビエ2.5葉期	ホタルイ、オモダカ、クログワイなどの抵抗性雑草に効果が高い
アピロキリオMX1 <sup>✪</sup> 粒剤	移植直後～ノビエ3葉期	水管理の難しい水田でも効果が安定している
ヤイバ1 <sup>✪</sup> 粒剤	移植直後～ノビエ3葉期	コナギ、オモダカに効果が高い。2成分剤
ガンガン1 <sup>✪</sup> 粒剤	移植直後～ノビエ3葉期	ノビエを長期間抑える、各種一年生雑草にも効果が高い
メガゼータ1 <sup>✪</sup> 粒剤	移植直後～ノビエ3葉期	ノビエをはじめ抵抗性雑草にも効果が高い
トップガンGT1 <sup>✪</sup> 粒剤	移植直後～ノビエ3葉期	高葉齢のノビエにも効果が高い、ホタルイにも効果が高い
月光1 <sup>✪</sup> 粒剤	移植直後～ノビエ3葉期	ノビエを長期間抑える、塊茎のある雑草にも効果が高い
モゲトン1 <sup>✪</sup> 粒剤	収穫45日前まで	藻類、表層剥離の発生時に使用

### 草種別体系処理 例

各種抵抗性雑草が多いほ場では下記のような初期剤と一発剤の体系処理をオススメします。自分のほ場にどのような雑草が多いかをよく見て使用する剤を選択しましょう。



一発剤散布後に雑草が発生した場合は有効な中後期剤を散布しましょう。

### 中後期剤

品名	使用時期	特徴
マメットSM1 <sup>✪</sup> 粒剤	移植後15～30日(ノビエ3.5葉まで)	各種抵抗性雑草に効果あり、気温により葉害の可能性あり
クリンチャー1 <sup>✪</sup> 粒剤	移植後7日～ノビエ4葉期まで	ノビエ専用剤 1.5 <sup>✪</sup> 散布でノビエ5葉まで効果がある
クリンチャーEW	移植20日～ノビエ6葉期まで	ノビエ専用剤 展着剤加用 スポット処理可能
クリンチャーバSME	移植15日～ノビエ5葉期まで	ノビエと広葉雑草を同時に防除可能 落水散布 スポット処理可能
ヒエクリーン1 <sup>✪</sup> 粒剤	移植15日～ノビエ4葉期まで	ノビエ専用剤 効果は遅効的だが残効性あり
ヒエクリーンバサグラン粒剤	移植15日～ノビエ4葉期まで	ノビエと広葉雑草を同時に防除可能 落水散布
バサグラン粒剤・液剤	移植15日～55日	広葉雑草専用 落水散布 スポット処理可能
フォローアップ1 <sup>✪</sup> 粒剤	移植15日～ノビエ5葉期まで	オモダカ、クログワイに効果が高い 効果は遅効的
アトトリ1 <sup>✪</sup> 粒剤	移植20日～ノビエ4葉期まで	オモダカ、クログワイに効果が高い 効果は遅効的